

周防大島中学校 研修通信 vol.5

的確な生徒理解のために③

最近、学校生活で気になるのが、月曜日の生徒たちの様子です。要因の一つとして考えられるのは、まず愛着障害の可能性にあります。愛着障害の子どもは、気分の波が激しいので、1日の中でも調子が良いときと悪いときがあったり、1週間の中でも曜日によっては、気分の落ち込みが激しかったり、イライラが抑えきれなかったりします。特に、家族との愛着関係が形成されていない場合、土日の2日間、家族と過ごすことになるため、ストレスがかなりたまった状態となります。また、クラブや部活の試合でストレスが蓄積し、そのストレスを学校で発散する生徒が多いと考えられます。

次に考えられる要因がスマホやタブレットです。生徒から朝の3時に寝たとか、オールしていたと聞くことが少なくありません。何をしていたのかと聞くと、スマホで tik tok を見ていたとか、グループ通話していたとかという返答が多いです。夜更かしして起きていて、次の日の授業に集中できないという生徒は全国的にもかなり増加しているようです。先日、スマホの使用は原則2時間までという条例が愛知県豊明市で成立されていましたが、条例や法律で規制しないといけないぐらい危険な状態なのかもしれません。

今回は、スマホとの付き合い方に関して、前号に引き続き、石井光太さんの著作を紹介したいと思います。タイトルは、『ルポ スマホ育児が子どもを壊す』です。この本は石井さんが保育園から大学までの教育関係者200人に取材をして本にまとめた労作です。タイトルに「スマホ育児」とあるので、スマホ育児を糾弾する内容かというところではなく、保育園から高校まで、スマホとの親密性が高い子供たちがどのような特徴をもっており、どんな困難な問題を抱えているかが、それぞれの発達段階ごとにまとめられており、デジタルネイティブの子供たちがどのような存在なのかを知ることができ、これからの生徒理解にとって、とても参考になる書籍ではないかと思えます。

私自身が読んでいて驚いた内容を少しだけ紹介しますが、まず保育園・幼稚園の章です。石井さんが取材した関西の保育園では、お昼寝が1時から2時まで設定されているのですが、3割ほどの子供たちの枕元にスタンド付きのスマホが置かれていました。それぞれ違った動画や音楽が流れており、かわいい動物やお母さんのようなキャラクターが子守唄を歌っていたそうです。子供たちが見ていたのは「寝かしつけアプリ」と呼ばれるもので、これがないと眠れない子もいるそうです。このような子供たちは、保育士が歌ってあげると逆に『下手』とか『うるさい』と言ってくることもあるそうです。また、そのアプリを見せればすぐに泣き止むのに保育士が抱っこしてゆさぶってもなかなか泣き止まない子供も増えてきているそうです。子どもの扱い方が大きく変わっていると保育士の方が感じているようです。

最近、ベビーカーや車用ベビーシートにスマホホルダーが取り付けられていることも多くなっています。こども家庭庁の「令和5年度青少年のインターネット利用環境実態報告書」によると、子どものインターネット利用率が58.8%と半数を超えるのが2歳で、0歳が15.7%、1歳が33.1%だそうです。また、スマホ・タブレット・PCなどを通して画面を見ている「スクリーンタイム」は、WHO（世界保健機関）は、1～4歳は1時間未満が望ましいとされていますが、日本の1歳児は、1時間未満が48.5%、1～2時間未満が29.5パーセント、2～4時間が17.9%、4時間以上が4.1%だそうです。（ちなみに20代・30代のスクリーンタイムの平均は5時間だそうです。）小さい頃からスマホが身近にあり、どんなことをするにもスマホが欠かせない子供たちが私たちの目の前にいます。これまでの生徒理解ではもう追いつけないところまで来ているのかもしれません。もちろん、スマホやタブレットにはメリット・デメリットがあると思いますが、メリット・デメリットの比重は明らかにデメリットの方が大きいのではないかと思います。デジタルネイティブの子供たちとどう向き合っていくか、大人が真剣に向き合っていくかといけない時期にもうなっているのではないかと思います。裏面に、この本の目次を載せておきます。気になる内容があれば、ぜひ手にとって読んでみてください。

